

第8章 ネットビジネスを

「あなたに幸せを呼び込む」ものとするために

ネットビジネスと聞くと「大儲けできるの?」「騙されるんじゃない?」果ては「怪しい」と感じる人がいまだにいることを、僕たちは重々承知している。

僕は16歳のとき、3万円の商材を初めて買い、それがネットビジネスを本格的に始めるきっかけとなった。

あのとき、胡散臭さを感じつつも手を震わせながら「購入ボタン」を押したことを、いまでも鮮明に覚えている。

そのときの僕と同じようなことを感じている人も、きっといることだろう。

16歳の僕にとって買うのに勇気が要ったその商材は、思っていたイメージに反してとても充実していて役に立つものだった。

素直に「ネットビジネスってすごいな」と思った。

僕はこの商材によって30万円の売上を生み、11万円の利益を得ることができた。

実際には、ただ商材に書いてあった通りにやったわけではない。

わからないことはネットで調べ、足りないところは補って自分で工夫しながら取り組んだ。

僕はどんなビジネスに取り組んでも稼げるまでやり続けるので、基本的に稼げないということはない。

ちなみに「稼ぐ」と「儲ける」は全く違う。

ネットビジネスは、楽しくお金が舞い込んでくる「儲け話」、いわゆるギャンブルではない。

自分で考えて収入を得る工夫をし、自らの手で「稼ぐ」ものだ。

僕は16歳のときからネットビジネスで稼いできたし、僕の周りには同じように稼いでいるネット起業家が沢山いる。

これまで何百人という人たちにネットビジネスの取り組み方を教えてきたが、中には僕の年収を越えるほど稼いでいる人もいる。

彼らとは、いまでもビジネス仲間として情報交換を兼ねて会食をしたり、ときには合同で合宿を企画したりと、楽しく付き合っている。

いまではネットビジネスをとりまく環境も大きく様変わりし、怪しげなものは淘汰された。とはいえ、怪しい話がゼロになったわけではないようだ。

去年「それはアウトでしょう」と思える話を耳にする機会があったので、参考までに紹介しよう。

それは去年の夏のこと。
大学生の“彼”が、指定された都内のカフェに行くと、そこには男性2人が座っていた。

そこでネットビジネスの成功例を沢山聞かされたのだと言う。
「君みたいな大学生が、数ヶ月で数百万円稼げるようになった」「在宅だけで、主婦でもこのくらい稼げている」といった具合だ。

実際には何をどう実践するのかわからなかったが、示された事例に納得し、やってみることにした。

コンサル費は高額だったが、そのままATMに連れて行かれ、消費者金融からお金を借りてその場で支払った。
そこまでは自分で決めたことだからと納得していた。

その後「ここで学んでいけば稼ぎ方もわかるから」と、しばらくスタッフとして様々な雑用をさせられた。

そこでは確かに売上が沢山あるのはわかったが、組織的に運営しているので、なかなか個人のビジネスへの応用が利かない。

確かに得ることもあったが彼自身のビジネスは軌道に乗らず、直接は何も教えてもらえないまま足が遠のき、結局縁が切れてしまったということだ。

そんな彼に、改めてサポートを依頼された僕は、一からきちんと稼げるロジックを伝え、実践を通してノウハウを教えていった。
半年経ち、彼は月に70万円の収入を得るまでになった。

このように、怪しげな誘いは残念ながら未だに無くなってはいないこと。
そして何を学ぶか、誰に学ぶかが、成功と失敗の分かれ目になるということを知っておいて欲しい。

ネットビジネスで夢を叶えてほしいから

彼に対してそうしたように、僕は依頼を受けて、ネットビジネスを効率よく実践する方法を、中長期に渡って教える場合がある。

何年にもわたって自ら実践して培ったノウハウや、特化した独自の手法を惜しみなく提供し、収益が上がるまでサポートする。

ときにはプライベートな悩み相談まで受けることもある。

実のところ身を削ってやっているような、精神的にもエネルギーのいる仕事だ。

僕が22歳のとき、ビジネスのサポートをしていた男性が、収益がそれなりに上がり始めた頃に「彼女と結婚するために、このビジネスをどうしても軌道に乗せないといけないので、よろしくお願いします」と言ってきたときには、大人2人の人生を自分が背負った気がして胃が痛くなったものだ。

彼はいま、年商3000万円を越え、ステキな奥さんと幸せに暮らしている。

ネットビジネスは独学でやるよりも、既に成功した人のノウハウを学ぶ方がはるかに効率が良い。それには、例えば大学で学ぶために学費を払うように、教えてもらうための対価が発生する。

しかも受験のような振り分けはないので、約束の金額さえ支払えば誰でもサポートを受けられる。

中には基本的なスキルの低い人もいる。

そうするとビジネスのノウハウ以前に、ソフトの使い方や文章の書き方の基本から始めることが必要となる。

少し上手いかないだけで、落ち込んだり投げ出そうとする人も中にはいる。

しかしこのような“大変な人”でも、あきらめずに取り組んでいけば、ちゃんと大きな成果に結びついていくのだ。

教える側の立場をイメージしてもらえると、様々な人を引き上げていくことの大変さが、少し理解できるのではないだろうか。

後になって「おかげで、あのときあきらめなくて良かった」と話す人はとても多い。

だから一概にスキルがないとダメだとは言えないところが、ネットビジネスの面白いところでもある。

ではなぜ、僕がこのような手間のかかる“親切すぎることを”あえてしてきたのかと言うと、ネットビジネスを始めた当初は、高級車が欲しいなどと言っていたものだが、いざそれを買うほどの収入に手が届くと、なぜか興味がなくなっていた。

結局僕が願っていたのは、「ストレスなく生きられたらいい」。ただそれだけだったのだ。

他に特に欲しいものもない僕は、「周りの人もネットビジネスで夢を叶えて幸せになればいいな」と思うようになっていった。

僕がこうしたスタンスだからか、周りには価値観を共有できる、至って穏やかで平和な仲間ばかりが増えた。

いまではマネジメントが主な仕事になり、現場はほとんど信頼できるスタッフ達に任せている。

日々「次は何やろうか」と、楽しいイベントの企画を考えたり、新しいコンテンツの打合せをしたり、或いは新規案件が舞い込んだりと、ポジティブで生産的な話以外は入ってこなくなって久しい。

あなたの未来の可能性を広げるために

ネットビジネスの商材やサポートは、本来、あなたの未来の可能性を広げる素晴らしいきっかけとなるものだ。

しかし裏を返せば、あなたの成功は、選んだ商材やサポートに大きく左右されるとも言える。

そこで、ネットビジネスの商材やサポートの良し悪しを「カンタンに見分けるポイント」を2つ紹介しよう。

ポイント 1. 最初から“中身”がわかること

①どのような手段を用いて実践するのか。②どのようなステップを踏んでいくのか。③それによってどんな結果が得られるのか。

これらが明確なものは、信頼できる確率が高いと言える。

逆に、何をどのように実践するのが不明瞭な場合は、注意が必要だ。

他の人の実績例や得られる結果のみを示している場合は、疑った方が良さだろう。

例えば「投資で誰でも簡単に成功できる」と謳っているものが、フタを開けてみるとFXの商材で、それを実践するには、一朝一夕では身に付かないようなスキルと自己資金が必要な場合もあり得るのだ。

ポイント 2. 信頼できる販売元か見極める

どちらかという、こちらの方が重要と言える。

「商材がどうか」の前に、まず販売者が信頼できるかどうかで判断すると良い。

まれに実体のない組織や個人が商材を提供している場合もある。

販売元、或いはその人物のメディア（HP、ブログ、Twitter、facebookなど）を辿り、過去の発信内容

や発言に筋が通っているか、そして自分と合っているかを確認する。

その上で、①販売者はしっかりとビジネスを実践しており、商材の内容に精通しているか。②どのよう
なところに露出しているのか。そして、③販売元自体に信頼性があるか。
これらのポイントで選択すると良いだろう。

自分の可能性を広げるためには、一つ一つ必ず自分で調べて判断することだ。

この「自ら調べて判断すること」が如何に大事かが良くわかる例として、お笑いコンビ、キングコングの
西野亮廣さんの実話を紹介したい。

「歪められた情報」に隠れた真の姿

2016年の暮れから翌年にかけてのこと。

その年の秋に発売された絵本『えんとつ町のプペル』について「キンコン西野、自著1万冊自腹購入」
というニュースが飛び交った。

それはフジテレビ系「バイキング」のインタビューに応じたものだった。

当時、マスコミで報道された内容は主に次のようなものだ。

「西野は当初、出版社から初版1万部の打診をされていたが、3万部にすることを要求した。その理由と
して考えたのは『1万部はすぐに売り切れてしまう。重版には時間がかかるので買いたい人を待たせて
しまう』というもの。しかしこれでは出版社への説得材料に欠けるため、西野は自ら2400万円の自腹を
切って1万部を購入した」

この話が報じられると、西野さんは様々な誹謗中傷を受けることとなる。

「1万部売れて大ヒットと宣伝するためにやっている、ひどいな、こいつ」「買った本は寄贈でもしたの
か」「損して得取れの精神だな。さすが商売人ですね」といったコメントが寄せられた。

恐らく多くの方は、大手の音楽事務所などが、自社アーティストのCDを大量に買うことでランキング
を上げる「自社買い」と同じようなことと捉えたのだろう。

これに対し当時も説明はしたものの「西野の言うことは全てタブー」のような風潮があり、聞いてもらえ
なかったのだと言う。

3年が経ち、西野さんの口から改めて何があったのかが説明された。

「Amazonの予約販売は3ヵ月前からとなっている。しかし制作段階から本の購入を希望する人たちが
いたため、発売の1年前から自分のサイトで予約を受け付けていた。そこで予約があった1万冊を出版
社に注文して、予約者に送ったというだけの話」

つまり発売前に自分で1万冊売ったのであり、自社買いとは全く違っていただ。

実はこの手法には一つの意図があった。

それは「出版不況が叫ばれている中で、業者や出版社へ、こういうやり方もあることを伝えたかった」というもの。

しかしメディアは肝心なところを切り取って報じたため、正しくは伝わらなかった。

「結局このやり方で初版部数を上げているのは今なお僕くらい。これは非常にもったいない」と、西野さんは話す。

そしてこの話は、次のように締めくくられた。

「これからも色んな提案をしていくが、どうか脊髄反射的に怒って耳をふさがずにお付き合い頂けると嬉しい。全ての挑戦者が挑戦しやすい環境をつくっていきたくないと本気で思っております」

これは有名人ゆえの極端な例かもしれない。

しかし、無意識に入ってくる一方的な情報だけをうのみにせず、自分でその本質を調べてみると、如何に偏った情報だけが提供されていたかわかることは実に多い。

そしてこの例のように、真実の中に「核心に触れるような本当に大切なこと」が潜んでいる場合も多々あるのだ。

自分でその情報の大元を調べた上で、判断すること。

これは組織に属さず、自らビジネスを興そうとする人には、ことのほか大事なことだ。

僕は、ネットビジネスを通して、夢を叶えて幸せになる人が増えればいいと考えてはいるが、基本的に「人は知らないことは否定する」ということを知っている。

この変わることを拒否する価値観を、どうにかして変えようとまでは思わない。

ただ、僕のコンテンツやこの本を通して、自分の可能性やチャンスに気づいてもらえたら嬉しい。

では最後に、ネットビジネスは“経済活動”だという前提の元、経済とは一体何で、僕たちはどのようなスタンスでネットビジネスを実践すべきかを考察してみたい。

これは、僕たちの実践している「ネットビジネス」の本質に迫るテーマだ。

「経済」という言葉の由来

普段あたりまえに見聞きしている「経済」という言葉。

「経済とは何ですか？」と聞かれたら、あなたはすぐに答えられるだろうか。

「経済」を辞書で引いてみると、このように書かれている。

「人間の生活に必要な物資の生産・流通・交換・分配・消費する活動。また、それらの行為を通じて形成される社会関係の総称。金銭のやりくり」¹

この通りに捉えるならば、ネット上で商品やサービスを仲介して手数料を得る「アフィリエイト」やYouTubeなどの「ネット広告」も、経済活動の一部と言える。

ここで、経済という言葉の本質を理解するために、西洋と東洋、それぞれの言葉の由来を辿ってみることにしよう。

西洋で言う「経済」

経済という言葉は、英語では「economy」と言う。economyは古典ギリシャ語のΟικονομία（家政術）に由来する²。

アリストテレスは、著書「政治学」の中で、「あくまでも各家庭における需要を満たすための諸活動」という意味でΟικονομίαの単語を使っている³。

また、これは（共同体における）「必要な財の獲得と使用」をも意味した⁴。

東洋から見る「経済」

日本語、中国語、韓国語にはいずれも「経済」という単語がある。

これは「経済済民」が語源となっている。

「経済済民」とは「世の中を治め、人民を救う」、つまり「一般市民が十分暮らしていけるように国家が社会を運営する」ことを意味する。

日本では明治時代、economyの訳語として「経済」という単語が使われるようになった。

当初は「金儲け」に相当する「理財」という単語も提案されていたが、最終的に「経済」の方が語訳として定着し、現在まで使われている。

このように「経済」という言葉の由来を辿ってみると、西洋の「economy」は、家庭の維持から国家の活動へと拡大していったものであり、東洋の「経済」は、社会全体をよく治めるための政治から生まれたものであることがわかる。

西洋の economy と東洋の経済の由来は、全く正反対とも言えそうだ。

しかし、西洋にしる東洋にしる、経済という単語の語源は、金儲けではなく「人々の需要の充足」にあるという点に注目したい⁵。

経済の本質を考える

僕たちの生活は、経済活動によって成り立っている。

金融庁の、中高生向けの副教材『わたしたちの生活と金融の働き』では、「家庭の経済活動のことを家計と言う」とした上で、次のように述べている。

「家計は消費活動を中心に行い、企業は家計で消費されるものやサービスなどを生産している。また、家計は収入を得るために、企業などに労働を提供し、賃金が支払われる。さらに、家計と企業は、政府（国や地方公共団体）に税金を支払い、公共サービスの提供を受けている」

こうして、家計・企業・政府は経済の主体となり、経済循環（もの、サービス、お金の流れ）の中で、それぞれの役割を担っているのだ⁶。

ここからもわかる通り、いまの資本主義社会では「経済」という言葉の中に、経済済民の「人民を救う」という意味は、残念ながら込められていないようだ。

では、いまの社会において、経済という言葉の本質をどのように捉えればよいのだろうか。

幸せをもたらす経済活動

『お金さえあれば良い？子どもと考える経済のはなし』という経済哲学の絵本がある。

これはエコノミスト・浜矩子さんの著書で、大人も読むべき絵本として定評がある。

この本で浜さんは、「経済は<人間の営み>そのものです」とした上で、「ひととひとの出会いの場をつくるのが、経済活動の仕事なので、そこからは、しあわせが生まれてこなければいけません。ひととひととが、出会いを通じてお互いをしあわせにする。そのために経済活動がある。そう考えてもらえばいいなと思います」と述べている。

つまり、経済活動を通して、多様な価値観をお互いに認め合いながら幸せを分かち合うこと。

それが、本当の意味で経済が実現している状態だと言える。

また、この本ではニセモノの経済活動として、こんな例を挙げている。

「賃金が安いので、どんなに働いても十分な生活費を得られないワーキングプアと呼ばれる人たち（中

略) こんな人たちの姿を見ると『経済活動は、人をいじめるモノじゃないか』と思えるのも、仕方ないかも知れません。でもじつは経済活動が<本当の姿>からどんどん遠ざかった<ニセモノ>になっているから、ひとびとが不幸になるのです」

僕はこの本を読んで、「もしかして僕の取り組んでいるネットビジネスも、<ニセモノ>の要素を含んでいるだろうか?」と、ふと思った。

しかしどう考えてみても、僕が取り組んでいるビジネスには、ワーキングプアが増えたりする要素はないし、最近ではむしろそうした人たちを助ける場にさえなっている。ましてや人をいじめる要素なんてどこにもない。

だから自信を持って<ホンモノ>だと言える。

僕は、ネットビジネスに取り組む誰もが、<ホンモノ>の経済活動として、自信を持って社会で活躍できるといいなど、心から思っている。

「幸せを分かち合う」という考え方

ここまで、経済という言葉の意味と、その本質を皆さんと共有するために、僕なりにまとめてみたわけだが、いかがだったでしょうか。

繰り返すが、経済活動は人を幸せにするべきものだ。お金を独り占めするものでも、ましてや不幸な人を増やすものでもない。

それぞれが、お互いの価値観を認め合いながら幸せを分かち合うことは、ビジネスに取り組む上でとても大切な考え方ではないだろうか。

コラーは、「マーケティングは生産物を処分するための技術などではなく、本物の顧客価値を生み出すための活動で、顧客の生活向上を支援する概念でもある」と述べている。

あなたも、これからネットビジネスに取り組んでいく過程で、経済という言葉の本質、そしてこのマーケティングの概念を、どうか思い出して欲しい。

一人一人が幸せになれる「ネットビジネス」という恵まれた環境をどんどん利用して、幸せの輪を広がることを、僕は心から願っている。

第8章

注

- (1) 『語源由来辞典』 <http://gogen-allguide.com/ke/keizai.html>
- (2) 松原聡 (2000) 『日本の経済 (図解雑学シリーズ)』 ナツメ社
- (3) 廣田裕之 (2018) 『経済の語源』 集広舎 <https://shukousha.com/column/hirota2/6033/>
- (4) 塩野谷祐一 『アリストテレスの経済哲学 (コラム) 家計経済研究第82号 (2009.4)』 (公財) 家計経済研究所 http://kakeiken.org/journal/jjrhe/82/082_09.pdf
- (5) 廣田裕之 (2018) 『経済の語源』 集広舎 <https://shukousha.com/column/hirota2/6033/>
- (6) 金融庁 (2007) 『わたしたちの生活と金融の働き』 (内閣府政府広報室)

参考

- 浜矩子 (2016) 『大人は知らない・子どもは知りたい! お金さえあればいい? 子どもと考える経済の
なし』 クレヨンハウス
- 『キンコン西野が絵本「1万冊」を自腹購入した本当の理由とは?』 Voicy
<https://voicy.jp/channel/941/68243>